教育部会用自己点検・評価報告書（様式１）

全学共通教育についての自己点検・評価報告書（教育部会用）

教育部会名：学際
部会長名：山内乾史
作成者名：山内乾史

概要（2000 字）

学際教育部会（以下、「部会」と略す。）は、23 科目、のべ 31 コマ（33 単位）の全学共通授業科目を全学部生に提供している。23 科目のうち、「EU 基礎論」、「男女共同参画とジェンダーA、B」、「ボランティアと社会貢献活動 A、B」、「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」、「海への誘い」、「環境学入門 A、B」、「企業社会論 A」、「神戸大学の研究最前線 A、B」、「国際協力の現状と課題 A、B」「社会と人権 A、B」、「グローバル人材に不可欠な教養–社会基礎学–（以下、「社会基礎学」と略す）」、「職業と学び―キャリアデザインを考える―A、B」、「神戸大学史 A、B」、「瀬戸内海学入門」の 22 科目が総合教養科目に、「総合科目Ｉ」1 科目が「その他必要と認める科目」に区分される。「総合科目Ｉ」は、「大学教育論」という副題をもつ。

「神戸大学の研究最前線」、「国際協力の現状と課題」、「社会と人権」、「神戸大学史」は各クォーターに 1 コマずつ計 4 コマ開講される。なお、「海への誘い」と「瀬戸内海学入門」は集中講義であり、通常の授業がない 7 月～9 月の土・日などに 2・3 日をかけて実施される。また、「社会基礎学」は土曜午後に実施される。

2016 年 10 月 1 日現在、106 名の教員が部会構成員となっている。そこには「神戸大学史」の授業の一部を担当されている学長も含まれる。学長を除く 105 名の所属部局は学術研究推進機構（3 名）、大学教育推進機構（3 名）、国際連携推進機構（2 名）の 3 機構すべて、人文学研究科（3 名）、国際文化学研究科（9 名）、人間発達環境学研究科（9 名）、法学研究科（10 名）、経済学研究科（10 名）、経営学研究科（6 名）、理学研究科（1 名）、医学研究科（3 名）、保健学研究科（4 名）、工学研究科（4 名）、システム情報学研究科（1 名）、農学研究科（5 名）、海事科学研究科（11 名）、国際協力研究科（4 名）、科学技術イノベーション研究科（2 名）の 15 研究科すべて、先端研究融合環（1 名）、内海域環境教育研究センター（8 名）、都市安全研究センター（1 名）、海洋底探査センター（2 名）、環境保全推進センター（2 名）、男女共同参画室（1 名）である。のべ 31 コマの授業に対して、コーディネータ等を含めた授業担当者の数が、非常勤講師を除いて 106 名もいるのは、部会が提供する科目にオムニバス方式の授業が多いからである。

部会長及び部会幹事は大学教育推進機構専任教授が勤めており、今年度については部会長を山内教授が、幹事を米谷教授と近田教授が務めた。

今年度の部会提供科目についての自己点検・評価は別紙の通り、全科目の担当者またはコーディネータから評価シートが提出された。今年度実施した部会自己点検・評価及び外部評価と年度末の各科目についての自己点検・評価をもとに、今年度の部会の自己評価を以下のように総括する。

各科目ともその内容は人権問題、国際関係、社会問題、環境問題を広くカバーするとともに、学際的・現代的・国際的・先進的であり、教養教育にふさわしく、まさしく総合教養科目と呼べるものである。授業形態は数人の教員がリレー形式で 8 回講義する形式（「国際協力の現状と課題」、「神戸大学の研究最前線」、「神戸大学史」、「環境学入門」など）だけでなく、「海への誘い」、「瀬戸内海学入門」、「ボランティアと社会貢献活動」、「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」のように、野外実習を含んだ体験学習、すなわち、アクティブラーニング型授業が多く含まれる。

多くの科目に関して、受講希望者が定員をはるかに超える人気科目であり、学生授業評価アンケートからもわかるようにほとんどが受講者の満足度は極めて高い。このよう

に部会が提供する科目の実施状況は総じて良好であるといえる。 　課題としては、コスト（人、施設、経費）がかかりすぎること、リレー科目における連携に問題のある科目がいくつかあること、科目間のグルーピングや体系づくりをしていく必要性、学生授業評価の回答率の低さと自由記述回答への対応などがある。こうした課題については、次年度以降、検討し、改善していかなければならない。（1692 字）

教育部会用自己点検・評価シート（様式１）

<u>項目・観点ごとの記述</u>

<u>基準５　教育内容及び方法</u>

５－１【教育課程の編成・実施方針（カリキュラム・ポリシー）が明確に定められ，それに基づいて教育課程が体系的に編成されており，その内容，水準が授与される学位名において適切であること。】

５－１－③：　教育課程の編成又は授業科目の内容において，学生の多様なニーズ，学術の発展動向，社会からの要請等に配慮しているか。

観点に係る状況（150 字以上） 部会が提供する科目には、人権問題、ジェンダー、国際関係、環境問題といった社会問題やグローバルイシューを扱う科目(「社会と人権」､「男女共同参画とジェンダー」､「EU 基礎論」､「環境学入門」､「国際協力の現状と課題」､「環境学入門」､「瀬戸内海学入門」)、最先端の自然科学や社会科学をリレー形式で第一線に立つ研究者自ら解説する科目（「神戸大学の研究最前線」、「国際協力の現状と課題」)、神戸や神戸大学について学ぶ科目（「神戸大学の研究最前線」、「神戸大学史」）があり、バラエティに富んでおり、文系・理系に偏らずバランスもよい。また、アクティブラーニングにより学生が学士力を育成・強化するための科目（「海への誘い」、「瀬戸内海学入門」、「ボランティアと社会貢献活動」､「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」)とキャリア科目(「企業社会論」、「職業と学び」、「社会基礎学」）があり、学士力やキャリア形成支援に役立っている。（408 字）
根拠資料 Web シラバス、及び、授業で配布しているシラバスやガイダンス資料

５－２【教育課程を展開するにふさわしい授業形態，学習指導法等が整備されていること。】

５－２－①：　教育の目的に照らして，講義，演習，実験，実習等の授業形態の組合せ・バランスが適切であり，それぞれの教育内容に応じた適切な学習指導法が採用されているか。

観点に係る状況（150 字以上） リレー形式・オムニバス形式で毎回異なる担当者が講義する大人数授業（「神戸大学の研究最前線」、「国際協力の最前線」など）がある一方、小集団に分かれてグループワークやフィールドワークをする少人数授業（「海への誘い」、「瀬戸内海学入門」など）があり、それぞれの授業の目的と性格にふさわしい形式で授業を実施している。「瀬戸内海学入門」では班にわかれて実験・測定をさせているが、これは文系学生にも理系の実験を体験させようという目的でなされている。「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」では、Moodle を利用して学生間の学習に関するやりとりをさせることで、授業時間外のグループワークを支援した。（288 字）

根拠資料 Web シラバス、教科書・教材、授業中に配布する資料など

５－２－②：　単位の実質化への配慮がなされているか。

観点に係る状況（100 字以上） シラバスの成績評価の欄で、成績評価は授業への積極的な参加、授業中の課題の他、授業時間外にさせるレポート等と期末試験（レポート）を総合的に評価する旨を明示し、毎回の授業で出欠確認するだけでなく、多くの科目で毎回学生にコメントを書かせて提出させている。オムニバス形式の科目では期末レポートで複数のテーマでレポートを書かせて提出させている。（167 字）
根拠資料 Web シラバス、授業中に配布するシラバスやガイダンス資料、レポート課題一覧

５－２－③：　適切なシラバスが作成され，活用されているか。

観点に係る状況（50 字以上） すべての科目のシラバスを精査したところ、すべての欄にしかるべき記入がなされており、必要にして十分な内容が書き込まれていることが確認された。（69 字）
根拠資料 Web シラバス、授業で配布するガイダンス資料やシラバス

５－２－④：　基礎学力不足の学生への配慮等が行われているか。

観点に係る状況（100 字以上） どの科目も教養教育の性格上、とくに予備知識をもたずに受講しても理解できるよう、内容と説明の仕方を適切なものにするべく努めている。また、授業内容が十分理解できなかった学生のため、授業担当者が一人の科目ではオフィスアワーを設定している他、授業終了時あるいはメール等でコーディネータや TA が学生からの質問に答えている。（155 字）
根拠資料 Web シラバス、授業で配布するガイダンス資料やシラバス

５－３【学位授与方針（ディプロマ・ポリシー）が明確に定められ，それに照らして，成績評価や単位認定，卒業認定が適切に実施され，有効なものになっていること。】

５－３－②：　成績評価基準が策定され，学生に周知されており，その基準に従って，成績評価，単位認定が適切に実施されているか。

観点に係る状況（100 字以上） 成績評価方法は定期試験のみでなく、授業への出席状況、課題の点数などを踏まえて総合的に行っている。成績評価基準はシラバスに明記されているとともに、いくつかの科目ではガイダンス等で学生に説明している。特定の科目で「秀」の割合が５割を越しているものがあるが、全体としては 5%程度である。成績評価・単位認定は概ね適切であ

る。（158 字）
根拠資料 Web シラバス、ガイダンス資料、授業中に配布するシラバス、成績分布、学生授業振り返りアンケート結果

５－３－③：　成績評価等の客観性，厳格性を担保するための措置が講じられているか。

観点に係る状況（100 字以上） 成績評価方法、成績評価基準をシラバスに明示するとともに、毎年、すべての科目の成績評価データをもとに成績分布と合格率を算出し、適切な成績評価がなされているかチェックしている。成績申し立て制度に対応するため成績評価についての資料を５年間保存するとともに、申し立てがあった場合には採点の基準や理由を含め、どうしてそうした成績となったか調査し、ていねいに回答している。（180 字）
根拠資料 Web シラバス、成績評価のための資料（答案、出席記録、成績表、集計表等）、成績申し立てに対する回答

<u>基準６　学習成果</u>

６－１【教育の目的や養成しようとする人材像に照らして，学生が身に付けるべき知識・技能・態度等について，学習成果が上がっていること。】

６－１－②:　学習の達成度や満足度に関する学生からの意見聴取の結果等から判断して，学習成果が上がっているか。

観点に係る状況（100 字以上） 成績分布（５−３−②の根拠資料）からみて学習の達成度は、どの科目についても十分であることがわかる。また、毎学生授業振り返りアンケートの結果から、総合判断についても、総じて十分学習成果が上がっているといえる。（103 字）
根拠資料 ５−３−②の根拠資料の表・図、及び、学生授業振り返りアンケート結果

<u>基準７　施設・設備及び学生支援</u>

７－１【教育研究組織及び教育課程に対応した施設・設備等が整備され，有効に活用されていること。】

７－１－④：　自主的学習環境が十分に整備され，効果的に利用されているか。

観点に係る状況（50 字以上） 鶴甲第一キャンパスに、自習室、総合図書館、共用スペースがあり、授業時間外の予復習や発展学習、レポート作成、試験勉強に利用できるようになっている。それ以外にも、

各学部にラーニングコモンズをはじめとする学習スペースがあり、学生の自習や共同研究に利用されている。（128 字）
根拠資料 キャンパスマップ、建物の図面、案内板

７－２【学生への履修指導が適切に行われていること。また，学習や課外活動等に関する相談・助言，支援が適切に行われていること。】

７－２－①：　授業科目のガイダンスが適切に実施されているか。

観点に係る状況（100 字以上） 各科目の自己点検・評価シートに明示されているように、ほぼすべての科目ガイダンスが行われ、用意した配布資料をもとに、授業のねらい、予定、注意事項、履修上の心得が説明されている。「海への誘い」「瀬戸内海学入門」のように授業開始前に履修希望者を集めて説明を行い、希望者が定員を超えている場合には抽選を行う科目もある。（155 字）
根拠資料 自己点検・評価シート、ガイダンス資料、授業中に配布するシラバス

７－２－②：　学習支援に関する学生のニーズが適切に把握されており，学習相談，助言，支援が適切に行われているか。
また，特別な支援を行うことが必要と考えられる学生への学習支援を適切に行うことのできる状況にあり，必要に応じて学習支援が行われているか。

観点に係る状況（100 字以上） オフィスアワーをシラバスに明示して学生からの相談にのっている科目（「神戸大学史」「瀬戸内海学入門」「環境学入門」「グローバルリーダーシップ育成基礎演習」もあれば、担当者、コーディネータ、TA がメール等で適宜学生からの質問や相談に対応している科目（例えば「神戸大学の研究最前線」）もある。「神戸大学史」ではうりぼーネットの掲示板を利用して学生とのコミュニケーションをしている。（186 字）
根拠資料 自己点検・評価シート、メールの記録